

転生したらゴリラの妹だった件について

みみか

【注意事項】

このPDFファイルは「ハーメルン」で掲載中の作品を自動的にPDF化したものです。

小説の作者、「ハーメルン」の運営者に無断でPDFファイル及び作品を引用の範囲を超える形で転載・改変・再配布・販売することを禁じます。

【あらすじ】

ごくごく普通の少女がある日……とある理由でゴリラこと近藤勲の義妹に転生させられてしまう。主要キャラと関わりたくない、面倒くさいことはしたくない。そんな願いが打ち砕かれた世界で今日も少女は頑張って生きてます。

目次

プロローグ

「ではでは、転生先を発表します！」

「はい？」

一面真っ白な世界。そんな世界に私は綺麗な女の人と2人でポツリと立っていた。

「ちよつと……… 転生ってどういうことですか？ 私死んだ覚えはないのですが……」

「……… えつと、その実は……… 私、神なんです。

びっくりした？」

……… 何となく予想はついていたよ

「それがでここからが本題なんですけど……… 私の先輩の神様が筋トレしてたんですよ……」

「……… はあ」

何故神が筋トレをする必要があるのだろうか……… とうか筋トレしたところで何が変わるんだよ。

「それがうっかりダンベルを落としちゃったみたいで………」

「あ、何となく理解しました」

つまりそのダンベルが落ちた所。そこに私がいたということだろう。

「というか……… めちやくちや理不尽な理由

ですね」

「いやあ……… 先輩もめちやくちや反省して

ます」

反省したところで何も変わらないよね……

「でっ…生き返らせてもらえるんですか

？」

「……… それがちよつと無理で

してー」

「は？」

意味がわからない。

「その代わりに転生させてあげよう…」

「すいません。日本語喋って下さい」

「だから転生させてあげよう…」

つまり私は神のせいであつた。ただ生き返ることができないから代わりに転生させてやろうと…

「…………… 神じゃなくて実は紙なんですか？」

「……………」

女神らしき人はめちやくちや落ち込んでいた。

「ごめん。私も言い過ぎだったね」

謝ると女神は直ぐに元気になった。

「じゃつ、気を取り直して転生場所を発表しまーす！」

「…………… 立ち直りは

やつ

「あなたの転生場所はズバリ”銀魂”の世界で

す

「無理」

「どうし

て？」

「どうしても何もあんな世界に行ったら私…………… 死にますよ？」

”銀魂”確かに私が好きな作品だ。でも死ぬ確率が高すぎる。攘夷戦争なんかは万単位の人が死んでいる。そんなところに転生させられても直ぐ死ぬだけだ。

「じゃあ、チートにしてあげましょう」

「…………… 別にいい」

「えっ？」

「だって、チートとかめんどくさいもん」

あれでしょ？チートって超美少女の主人公の幼馴染とかになつ

ちやっぺているんなキャラとか関わって時に戦闘に巻き込まれ時に恋愛に巻き込まれるめちやくちやめんどくさいやつだよね？

「……あ、でも平和な田舎に住む優しい兄を持った少女ならいいですよ」

「……優しいお兄ちゃん。ずっと欲しかった存在だ。それに田舎の方がったら平和だろう……」

「……ああ分かった。望み通りにしてあげましょう」

「……そう言っぺ女神が笑うと私の意識は吹っ飛んだ」